

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体				
キャンドルロードminami		南区役所区政企画室・南区内の学生等				
事業目的	事業内容	活動指標	R1 (minamiキャンドルナイト)	R2 (minamiキャンドルナイト)	R3	
思い出に残るようなキャンドルの展示など、南区の冬の風物詩として、「ふるさと意識」の醸成を図る。 また、学生によるキャンドルアートや、南区民による願い事キャンドルなど、協働によるイベントを開催し、子どもから高齢者まで世代や地域を超えた繋がりを促進する。 なお、大学生自らが新型コロナウイルス感染防止のリーダーとなり、騒がない、静かに灯りを楽しむイベントを企画運営し、感染防止対策を踏まえ実施する。	①願い事キャンドル(こども園や施設をはじめ南区民が記入) ②南区内の高校・大学によるキャンドルアート ③YouTubeのライブ配信	イベント参加者数	3,200人	中止	1,800人	
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性			
○	当イベントは、南区の冬の風物詩としてふるさと意識の醸成を図ることを目的に行っている。 イベントの実施にあたっては、大学連携の一環として南区内の大学生との協働を推進するものであり適当である。	○	南区内の大学生と企画会議を行い、イベントの企画や、キャンドルのデザイン等を決定したほか、区内の高校生によるキャンドルアートの展示や認定こども園、グループホームによる願い事キャンドルの展示など、様々な団体との協働により開催している。	○	願い事キャンドルやキャンドルアートの展示など約7,000個のキャンドル瓶が会場を彩った。 また、新たな取り組みとしてYouTubeでのライブ配信を実施し、イベントを盛り上げた。	
○	作業量の多いイベントであるが、大学連携による学生の参加により、区の負担は増えていない。 なお、簡単な作業については、チャレンジオフィスを活用した。 また、学生がSNSなどを活用し、定期的にイベントの告知を行うなど、効率的に広報も行っている。					
⑤自立発展性	総合評価					
—	当イベントは、大学と連携し、行政にはない柔軟な発想力を取り入れてイベントを作り上げていくことが期待される。 引き続き、南区内の大学など各種団体に参加を呼びかけ、協働してイベントを行っていく。	○	今年度は、令和元年度まで開催していたminamiキャンドルナイトから形を変え、キャンドルロードminamiとして西原公園緑道のみでの開催となった。イベントの内容を見直し費用削減も行ったが、約1,800人の来場があった。 また、大学生は自らが新型コロナウイルス感染防止のリーダーとなりイベントを企画運営し、当日は子どもから高齢者まで、幅広い年代の来場者が見受けられ、事業目的を達成することができた。			
今後の方向性(課題、改善提案等)						
拡充 継続 見直し 廃止	当イベントは、minamiキャンドルナイトから形を変え、今年度初めて開催したが、minamiキャンドルナイトが令和元年度まで合計で11回開催したこともあり、冬のキャンドルイベントは南区の地域イベントとして定着している。 今年度は、願い事キャンドルの募集やYouTubeのライブ配信など、様々な形でイベントを楽しめるように取り組んだ。 また、今後も引き続きSNS等を活用しながら、イベントを楽しんでもらう工夫や効果的な広報に取り組んでいく。そして、イベントの企画に携わってもらえるよう、今後も南区内の大学等に参画を呼び掛けしていく。					